

「今の社会は、コミュニケーションが難しい。だから、私たちは利用者さんのコミュニケーション力の向上に重点を置いています」と話す中村さん。特に力を入れているのは、書くことだそうです。

「初めての利用者さんにはまず、就職先でうまくいかなかったり、辛かったりしたことなどを書き出してもらいます。書くことで、自分が伝えたいことを明確にできます。また、自分が聞いた

ことを書いて記録する習慣もつき、仕事上の失敗防止にもつながります。この習慣は、今後どの仕事でも生かせるものです」
現在、受託している清武総合支所の清掃は、とても貴重だと中村さんは言います。
「5人のチームで清掃を行うのですが、集合から作業完了までを時間内に終わらせるために、互いに協力する力が付きます。しかも地域の皆さんがいらつしやる中で仕事



じょいわーくすは清武総合支所での清掃を7年間続けています



わかるかな？
クイズ Quiz

街で見かける障がい者に関するマーク

次の8つのマークがどんな意味を表すか、あなたはいくつわかりますか？

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧

← 答えは次のページ(P9)

ヒント2
羽ばたくまで、何度でも挑戦する。
チャンスは一度ではありません。

じょいわーくす 所長
中村 清子さん



ヒント1
失敗してもいい。学習を続けること。
生きるために大切なことです。

チームさどわら 理事長
佐藤 君代さん



[特集1] 障がい者の就労支援活動に学ぶ！

社会で
生きるための

4つのヒント

[問]障がい福祉課
☎21-1772

障がいのある人もない人も、互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現が求められています。今回は障がい者の就労支援活動を通じて、私たちが社会で生きる上でのヒントを聞きました。

はたらく人の声
ねぎらいの一言にやりがい
将来は接客で力を発揮したい

西山 誠さん(25歳)

清武総合支所や高齢者施設など3か所で週4回、1日約5時間の清掃作業をしています。市民の皆さんとあいさつを交わしたり、「お疲れさまです」とねぎらっていただけたりするのがうれしいですね。スタッフの方が親身に相談に乗ってくれるので、分からないことを自分から聞けるようになりました。この経験を生かし、将来は飲食店で接客に励みたいです。

はたらく人の声
お客様の「おいしい」のために
うどん作りに試行錯誤

佐野 正規さん(63歳)・日高 博胤さん(43歳)

食堂でのうどん作りと、いろんな施設での清掃をしています。うどん作りは初めこそ慣れませんでした。みんなの和気あいあいとした雰囲気のおかげで、今ではもっと腕を磨きたいと思うようになりました。うどんをこねたり延ばしたりする感覚は毎日違うので、試行錯誤の連続です。お客様にもっと「おいしい」と言っていただけるよう精進します。



人気のAランチ。うどん以外の料理も障がい者の皆さんの手作りで



お仕事応援マップ

障がい者の仕事選びをサポートします！

障がい福祉課
主事 長友 理純

「失敗しても、学習しなければ就労して仕事をすることはできません。私たちは、みんなの人生を預かっているようなもの。一人一人が自信を持てる技術や商品を手に入れるよう、個別に相談に乗ったり、励ましたりしながら学習をサポートしていきます」

「過ぎの久峰食堂。『お待たせしました』と運ばれてきたのは、チキン南蛮やうどんがセットになったAランチです。『粉からこねて、麺打ち、だし汁に至るまで全て障がい者が手作りしているんですよ』と話す佐藤さんは、平成20年からチームさどわらで障がい者の就労支援を行っています。

現在、食堂では15人が調理や接客に従事しているほか、地域の保育園や事業所で清掃もしています。また、平成25年からは青パイヤの植え付けから加工までを行い、「パイヤ茶」の製品化にも成功しました。「一人一人好きな仕事は違います。今後でもできるだけ選択肢を広げていきたいと思っています」

「現在、食堂では15人が調理や接客に従事しているほか、地域の保育園や事業所で清掃もしています。また、平成25年からは青パイヤの植え付けから加工までを行い、「パイヤ茶」の製品化にも成功しました。「一人一人好きな仕事は違います。今後でもできるだけ選択肢を広げていきたいと思っています」